

学術情報センター ニュース

第28号目次

《トピックス》

- ・電子図書館システムの試行に向けて
—学術情報システムの新たな展開— … 2
- ・ピアス博士来訪 …… 4
- ・研修課 新設 …… 5
- ・英国CATプロジェクトの1年延長 …… 5

《NACSISサービス案内》

- ・JOIS利用料金の改定 …… 6
- ・「学術雑誌目次速報データベース」の運用開始 …… 7
- ・「電気化学データベース」の正式サービス開始 …… 8
- ・NACSIS-IRの検索機能の改善 …… 9
- ・電子メールシステムにおけるファイル転送 (ftp)の利用 …… 10
- ・漢字コード変換プログラム (KCNV) の利用 …… 11
- ・国際電子メールにおける漢字利用の拡大 …… 12
- ・インターネット経由でのNACSIS-IR利用—端末モードの追加— …… 12

- ・平成6年度NACSIS-IR モニターの募集 …… 13
- ・NACSIS-ILL利用状況(平成5年度) …… 15
- ・接続ニュース …… 16
- ・電算機等設備移転に伴うサービス休止 …… 16
- ・NACSIS-IRデータベース収納状況 …… 17
- ・目録所在情報サービス利用の手引き
(第4版)の発行 …… 18
- ・NACSIS-CATデータベース構築状況 …… 19

《教育・研修》

- ・平成6年度情報検索・電子メール利用説明会の追加開催 …… 20
- ・平成6年度目録システム講習会の日程変更 …… 20
- ・平成6年度目録所在情報サービス利用説明会の開催 …… 21

《その他》

- ・学術情報センター刊行物 一覧 …… 22
- ・人事異動 …… 22
- ・海外渡航 一覧 …… 24
- ・学術情報センター日誌 …… 24

学術情報センターニュースは23号からオンラインでも見るができます。
NACSIS newsletterのオンライン・サービスが開始されました。

電子図書館システムの試行に向けて

—学術情報システムの新たな展開—

学術情報センター助教授

安 達 淳

1. はじめに

昨年度、大学のネットワーク環境の驚くべき充実を目の当たりにした。これに呼応し学術情報センターの担当する広域ネットワークSINETも、より一層の拡充を予定している。ネットワーク高速化の潮流の中で、学術情報センター研究開発部では、研究者の新しいニーズに応じたサービスを提供すべく、「電子図書館システム」の開発を行ってきた。

NACSISのとらえる「電子図書館」とは、一言でいえば、学術雑誌の持つ一次情報を直接研究者のもとに届けるようなサービスである。これを新たな統合的学術情報提供サービスとして位置付けており、本年に予定する試行サービスはその端緒となるものである。

2. 電子図書館のシステム概要

2.1 蓄積する資料

データベースとして蓄積する一次情報の対象は、雑誌論文と会議録である。書籍については、将来的な検討課題としている。

学術雑誌のデータベース化に関してはすでに情報処理学会から許諾を得ており、今年度の試行に向けて学会誌の「情報処理」や論文誌を始めとし、主要な文献をすべてデータベース化する予定である。併せて、他の学会に対してもデータベース化への協力をお願いし、速やかに実施したいと計画している。

システムは、雑誌等のすべてのページを画像として蓄積する。また、一次情報にアクセスするための二次情報(目録情報、二次文献情報、目次情報)も併せて蓄積しており、従来の情報検索システムの機能を包含している。このような総合的な検索システムが、電子図書館の基本的な姿である。

2.2 システムの機能

3ページの図に示したものは、既に動いている検索画面例である。文献データベースをキーワード検索し、見つかった論文の最初のページを表示してみたところである。従来のNACSIS-IRの検索インタフェースを単に使い易くしたという見方もできる一方で、ワークステーション上で雑誌のページを目次から順々に「めくる」こともできる。必要な文献は手元のプリンタに印刷出力する。

The screenshot shows the NACSIS electronic library system interface. On the left, there is a search criteria window titled '冊子検索条件' (Journal Search Conditions) with fields for '雑誌タイトル' (Journal Title), '年' (Year), '巻' (Volume), '号' (Issue), and 'ページ' (Page). The search results window shows 'Journal of information processing', '1991', '14', '1', and '1'. Below this is a '検索結果詳細一覧' (Search Results Detail List) window showing the author 'Anzai, Hiroaki' and the title 'Almost Boolean Algebraic Computation of LALR(1) Look-Ahead Sets'. The main window on the right, titled '冊子内容表示' (Journal Content Display), shows the article's title, author, and abstract. The abstract discusses the use of LALR(1) Look-Ahead sets and Boolean algebraic computation. The article title is 'Almost Boolean Algebraic Computation of LALR(1) Look-Ahead Sets' by Hiroaki Anzai. The abstract text is as follows:

Research Contribution

Almost Boolean Algebraic Computation of LALR(1) Look-Ahead Sets

Hiroaki Anzai*

In order to obtain an LALR(1) parser from a given grammar, it is necessary to construct an LR(0) automaton and to compute LALR(1) Look-Ahead sets. This paper presents a new method for doing so, based on the linear algebraic approach instead of the traditional graph-theoretic one.

After studying why the regular languages generated from the reduced sets isomorphic to Boolean algebra, the paper shows that the above problems can be solved by partially reducing them to products of two matrices: Boolean algebra, in such a manner that matrices are not obtained by substituting a constant for each of whose variables is a Boolean variable.

For a given BNF, results of this kind define the state transition of an LR(0) automaton are given and solved. Follow sets are similarly defined and solved. Each solution is a formula for computing the reduced sets which form the product of the element of a Boolean matrix and a vector of other Boolean matrices of size of symbol. Finally, each Look-Ahead set is obtained as a union of proper subsets of Follow sets.

Last now, this kind of computation has been done in an iterative manner of set operations on the data table until the new one itself becomes unchanged. Finally, the paper gives a formula for computing them by almost Boolean matrix computation.

1. Introduction

For a given grammar, in order to construct an LALR(1) parser, which is one of the most practical and popular kinds of parser, it is necessary to construct an LR(0) automaton and to compute LALR(1) Look-Ahead sets from the automaton. Many researchers have devised methods for doing so [1, 2, 3]. An efficient method was shown by DeRemer and Peterlin [4] in 1982.

The traditional approach to solving the above problems is the graph-theoretic one. Instead, this paper applies a linear algebraic approach to the problems.

This approach to graphs was, however, shown to be a field of graph theory by Carr [5] and Gordon and Newman [6]. In fact, this approach has been applied to finite automaton theory since the early 1970s (e.g., Inasaki and Tange in 1985 [6], Nishiki showed in 1987 that this approach is based on the algebraic system as a semiring [7]). We also studied applying the approach to basic automaton theory [8]. After that, we used this approach for generation of recursive descent syntax directed compilers [9, 10].

This approach was first applied to context free languages by Tiller [11]. For a given extended BNF, he gave a polynomial representation equivalent to it, that is, a system of homogeneous right linear equations, and called it the Standard Right Linear equation or SRL equation. In the equations, each coefficient is a set of terminal and nonterminal symbols and each constant term is either the empty set or the empty string ϵ . From the equations, he gave a parser of the top-down type.

As an application of this approach, we present a new method of obtaining an LR(0) automaton and its LALR(1) Look-Ahead sets.

The paper also points out that the language space generated from the empty adjacent automaton, or Boolean algebra, and shows that the above problems can be solved by partially reducing them to problems of this regular language. Boolean algebra, in such a manner that unknown finite sets are defined in the form of simultaneous equations each of whose coefficients is a Boolean matrix. Formulas to compute the sets are then derived as the solutions of the equations.

For Tiller's SRL equations derived from a given BNF equations of this kind defining the same result of an LR(0) automaton are given and solved, and the solutions, that is, the state transitions, are represented as the product of a Boolean matrix representing a matrix and a Boolean matrix representing the state transition function. First sets and Follow sets are also derived in the form of the above kinds of equations, respectively. Formulas to compute the sets are given as the solutions, whose form is the product of the element of a Boolean matrix and a vector of symbol sets. Finally, each Look-

2.3 システムの特色

NACSISの電子図書館システムを要約すると以下ようになる。

- (1) 156Mbpsのスピードの次世代の高速ネットワークATMを前提とする広域情報サービス
- (2) 文献情報、目録情報、ドキュメントデリバリーなど、従来の個別情報サービスを統合するサービス
- (3) ANSI標準のZ39.50という通信プロトコルに準拠する相互接続性の高い情報サービス。インターネット上のWAIS(ウェイズ, Wide Area Information Service)などの新しいサービスとの結合を容易に実現可能
- (4) 大学図書館の新しい情報サービスと連携を前提

3. 本年度の試行計画

平成5年度までに電子図書館システムのソフトウェアの基本部分の作成を完了している。平成6年度には、運用システムとしての実証性を検証することを主眼としている。このため試行サービスを行い、情報処理学会関係の研究者、学生や図書館関係者など、各方面からの評価を得、その意見をさらにシステムの機能向上や運用に反映させ、実用サービスとしての完成度を高めていきたいと考えている。

本年度は本格的にデータベース作成に取りかかり、情報処理学会とも相談し、本年11月頃にはサービスの試行を開始する。また、12月には西千葉に学術情報センターの計算機新棟が完成し、そこへの計算機の移転とともに、西千葉・東京間のネットワークに156MbpsのATMを導入し、名実ともに高速ネットワーク上での運用の試験も行う。

4. 次年度以降の展開

次年度以降は、一層本格的なシステム構成に高めていく方針である。一つには、同じ通信プロトコルZ39.50を使っている米国のWAISとの調整をとり、情報システムの相互接続が可能のように拡張していく。

一方で、協学会の数を増やし、データベースに投入する雑誌数を拡大していく方針である。また、サービスの運用方針についてもサービス拡大の方向で検討していくことにしている。また、データ入力に関しては、大学図書館との間では、学術雑誌に加え大学の作り出す各種の学術文献情報の入力等の面で円滑な協力関係を作っていくのではないかと考えている。

一方、全文型の一次情報の取り扱いも注目される場所であるが、今後の研究や学会の動向を見ながら取り込んでいく方針である。なお、システム的には全文情報も取り扱えるように工夫している。

ピアス博士来訪



ジョン・ピアス博士 (Dr. John R. Pierce) が、平成6年4月18日～19日に学術情報センターを訪問するとともに、4月21日に学術情報センター公開講演会で講演した。ピアス博士は、ベル研究所通信基礎研究部長、カリフォルニア工科大学教授、スタンフォード大学教授などを歴任しており、現在はカリフォルニア工科大学ならびにスタンフォード大学名誉教授。同博士は進行波管などのマイクロ波用真空管の開発者として知られており、今日の電気通信技術に大きな業績を残している。また、衛星通信の実用化を推進した功績も有名である。他にもLANの先駆的研究や、電子音楽の研究など、幅広い業績を残している。これらの功績に対し、多くの国から賞や栄誉を受けているが、我が国では1985年に第1回「日本国際賞」を受賞している。ピアス博士は、学術情報センターの事業について視察するとともに、研究開発部の電子図書館や超高速デジタル通信などの研究プロジェクトについての議論に参加し、その内容に高い評価を示した。また公開講演会では「マイクロ波真空管の機能と応用」と題する講演を行い、多くの聴衆に感銘を与えた。

研修課 新設

当センターの教育研修事業は、センターとの接続機関と利用者の増加にともなって、講習会・研修会の受講希望者が急増しています。受講希望の方々の要望に応えるように施設・設備の拡充と研修事業の担当部門の充実が望まれていました。

平成6年度の本予算成立をもって、当センター管理部に研修課が発足し、教育研修事業の一層の発展を期することとなり、共同利用課研修系の業務を引き継ぎます。

今後も各大学等の関係機関の協力を得て、教育研修事業を一層発展させたいと考えますので、よろしくお願いします。

管理部	研修課長	☎03-3942-6939
	企画係	☎03-3942-6935
	指導係	☎03-3942-6936
	ファクシミリ	03-3942-6797
		(共同利用課)

英国CATプロジェクトの1年延長

英国CATプロジェクトは、平成3年3月から学術情報センターと英国図書館および英国内の5研究図書館（Cambridge 大学、Oxford大学、Sheffield 大学、Stirling大学およびLondon大学）との間で行われているプロジェクトであり、英国側参加機関が所有する日本語資料の総合目録をNACSIS-CATを用いて作成することおよびNACSIS-CATの海外における利用の可能性を評価することを主な目的としています。

本プロジェクトは、英国側参加機関のNACSIS-CATへの接続を主とした1年間の第1フェーズの後、平成4年4月から平成6年3月迄の2年間を第2フェーズとし、実務レベルのNACSIS-CATの利用が開始されました。この間、センターではプロジェクトの進展のため、時差を考慮した英国側参加機関へのNACSIS-CATの提供時間の延長、NACSIS-IRの提供および参加機関に対する英国版の個別版CD-ROMの提供等の支援を行ってきました。現在は英国側参加機関からのNACSIS-CATへの登録件数も増加し、また当初の目的である英国内の日本語資料の総合目録も完成に向けて研究開発が進められております。

この度、第2フェーズの終了をひかえた平成6年2月16日に英国図書館で開催されたプロジェクトの会議（学術情報センターからは宮澤教授、甲斐専門・電子係長および早野国際事業係長が出席）において、本プロジェクトの期間を更に1年間延長し、日英間の通信のインターネット経由（IP化）への移行およびプロジェクトの総仕上げを行う最終年とすることが英国側参加機関および本センターの双方により合意されました。今後は各参加機関のネットワーク状況を調査しIPへの移行を進めていくとともに、英国内の日本語資料の総合目録の完成に向けてプロジェクトを進める予定です。

なお、本プロジェクトに関する記事は、本誌10号(1989.12)、11号(1990.3)、13号(1990.10)、14号(1990.12)、15号(1991.3)、20号(1992.6)の各号にも記載されています。

J O I S 利用料金の改定

日本科学技術情報センター（J I C S T）から、J O I S 利用料金を平成6年4月1日から改定した旨の連絡がありましたので、改定後のJ O I S 利用料金をお知らせします。

なお、学術情報センター（NAC SIS）を経由してJ O I S を利用している方は、今までどおり、基本料金（1,000円/月）は無料となり、「J I C S T 科学技術文献ファイル」、「J I C S T 速報ファイル」、「J I C S T 科学技術研究情報ファイル」および「MEDLINE 医学文献ファイル」については、大学などの利用者に限ってNAC SIS-I R の利用料金と同一料金（接続料：50円/分、オンライン出力料：13円/件、オフライン出力料：13円/件）で利用できます。

また、「TOXLINE 毒性文献ファイル」については、「STN International」でサービス開始のため、「J O I S」でのサービスは平成6年5月31日で中止になりました。「CANCERLIT がん文献ファイル」についても、「STN International」でサービス予定のため「J O I S」でのサービスは中止となる予定です。

J O I S 利用料金、J O I S 利用申し込みおよびSTN International 利用申し込みの詳細については、J I C S T の各支部・支所にお問い合わせください。

改定後のJ O I S 利用料金

データベース名	接続料	オンライン出力料	オフライン出力料
ICST 科学技術文献ファイル	160円/分	70円/件	85円/件
JICST 速報ファイル	160円/分	45円/件	40円/件
JICST 科学技術研究情報ファイル	160円/分	65円/件	68円/件
MEDLINE 医学文献ファイル	90円/分	25円/件	49円/件
JICST 資料所蔵目録ファイル	50円/分	—	—
JICST・医中誌国内医学文献ファイル	175円/分	85円/件	89円/件
JICST 科学技術医学文献ファイル(英文)	160円/分	64円/件	65円/件
日刊工業記事情報ファイル	187円/分	68円/件	93円/件
日経産業新聞ファイル	187円/分	68円/件	93円/件
大阪市都市工学情報ファイル	160円/分	60円/件	85円/件
CANCERLIT がん文献ファイル	90円/分	25円/件	49円/件
MeSH 医学用語ファイル	50円/分	—	—
IRRD 道路文献ファイル	160円/分	45円/件	70円/件
INFOTERRA 環境情報源ファイル	160円/分	45円/件	70円/件
原子力情報ファイル	—	—	—
研修ファイル	—	—	—

- 1 研修ファイルは、「J I C S T 科学技術文献ファイル」、「J I C S T・医中誌国内医学文献ファイル」および「MEDLINE 医学文献ファイル」の練習用です。
- 2 オフライン手配料（700円/回）などその他の料金は正規の料金となります。

（共同利用第二係）

「学術雑誌目次速報データベース」の運用開始

平成6年4月から、大学などとの新たなる協力事業として、「学術雑誌目次速報データベース（以下「DB」という）」の運用を開始しました。この運用開始により、現在、大学などの図書館（室）の協力によるデータ作成を進めていますが、DBの検索サービスは10月から開始する予定です。今回は、正式運用に先立ち実施した試験運用、今後の運用スケジュール、および検索サービスなどについてお知らせします。（このDBの計画や経緯については、本誌25～27号の記事を参照してください。）

1. 試験運用

平成6年3月上旬から3月末日までの間、14の大学図書館の協力により試験運用を実施しました。この試験運用により、約2,500件の記事データを収録したテストDBを作成することができました。また、参加機関からは、作成システム、入力データ項目、データ記述規則、作成マニュアルなどに関する意見を聴取しました。

2. 今後の運用スケジュール

現在、試験運用の結果をもとに、作成システムとマニュアルの改善・整備を行っています。入力作業用のマニュアルを8月に配布した上で、9月下旬～10月中旬に全国6か所で、大学図書館などのデータ作成担当者向けの説明会を開催します。この説明会の案内、および参加募集の文書は、別途、各機関あてに送付します。

運用への参加の手続きなどについては、データ入力の説明会で説明しますが、それ以前にデータ作成を希望する機関は、このDBの担当係（データベース課文献データベース係：TEL. 03-3942-6975～6976）までご相談ください。

3. 検索サービス

N A C S I S - I Rによる検索サービスは10月から行う予定です。このDBの利用料金は、経費区分B（データベースを呼び出す都度、30円）となります。その他、サービスの詳細については、次号のセンターニュース、およびオンラインニュースでお知らせします。

なお、試験運用で作成したテストDBについては、7月1日から無料で利用できます。呼び出しコマンドは「TSOKUHO」です。項目内容、出力モードなどについては、「?INFO」、「?ITEM」コマンドで確認してください。

（データベース課）

「電気化学データベース」の正式サービス開始

電気化学データベースは、平成5年11月から試行サービスを行っていましたが、平成6年5月2日から正式サービスを行いました。

1. 電気化学データベースの概要

(1) 収録対象

電気化学系における現象は、電極／溶液界面における電荷移動現象と溶液内におけるイオンの移動現象の2つに大別されます。電気化学データベースには、これら2つの現象を記述するのに必要な「電解質溶液の物理化学パラメータ (COND DATA)」と「電気化学反応パラメータ (EC DATA)」の2種類のデータが格納されています。

(2) 収録データ項目

掲載雑誌の情報、イオン反応に関する条件、測定値、測定方法、電解質溶液の伝導度、密度、粘度、活量係数等が収録されています。

(3) データ、システムの作成機関

原データは横浜国立大学化学データベース委員会で作成されたものです。また、検索システムは名古屋市立大学計算センターを中心に開発されたものを学術情報センターに移植したものです。

(3) データ件数

COND DATA :	2,184文献	23,629データ
EC DATA :	6,320文献	48,524データ

(4) 本データベースの特徴

電気化学データベースは、従来のNACSIS-IRとは検索方法が異なり、メニュー方式となっています。

2. 利用方法

データベース呼び出しコマンドは「ELCHEM」です。内容および利用方法については、「NACSIS-IR データベースシート(ELCHEM)」をご覧ください。データベースシートをご希望の方は、①送付先の郵便番号、住所、氏名、②利用者番号、③ご希望のデータベース名を明記の上、FAX(03-3942-6797 共同利用第一係宛)でお申し込みください。

3. 利用料金

データベースを呼び出す都度 … 30円/回

利用に係る経費は、各データベースの利用額の月ごとの合計額にその3%を加算した額になります。

(データベース課)

NACSIS-IR の検索機能の改善

1. 概要

平成4,5年度のNACSIS-IR モニターなど利用者の皆様からのご意見・ご要望等を参考に、以下のとおり、NACSIS-IR の検索機能を改善しました。

なお、一部のデータベースについては、本ニュース発行時点で作業中の場合がありますので、完了次第オンラインニュースでお知らせします。

2. ヘルプ機能の強化

全てのデータベースに以下のとおりヘルプコマンドを追加しました。

コマンド	機能
?CHARGE	検索時間、利用料金を表示します。
?COMMAND	全コマンドの一覧を表示します。
?コマンド名	そのコマンドの機能および入力書式を表示します。
?ERROR	エラー・メッセージの説明を表示します。
?HELP	ヘルプの一覧を表示します。
?ITEM	全項目の一覧を表示します。
?ITEM 項目記号	その項目の説明を表示します。(コードの場合は内容の一覧を表示します)。
?SCRIPT	学術記号、特殊文字の検索・表示についての説明を表示します。

3. カタカナ半角文字の全角表示機能の付加

英字小文字とカタカナ半角文字を同時に表示できない一部の端末への対応として、カタカナ半角文字をすべて全角文字に変換して表示する以下のコマンドを追加しました。(カタカナ半角文字のデータを持つデータベースが対象です。)

コマンド	機能
KANA	KANA ONでデータ中のカタカナ半角文字をすべて全角で表示し、KANA OFFで元に戻ります。

4. 検索速度の向上

現行法令データベース (LAW) を除く全データベースについて、検索システムのベースとなるシステムを最新のものに置き換えることにより、大幅な検索速度の向上を実現しました。

(データベース課)

電子メールシステムにおけるファイル転送 (f t p) の利用

学術情報センター電子メールシステムの利用時に、インターネットのファイル転送機能 (f t p) が利用可能となりました。これにより、アップロード(PUT)やダウンロード(GET)が可能となり、利用されている端末 (パソコンやワークステーション) 側でのファイル利用や、端末側で事前に作成した文章を流用したメールの送信、電子掲示板への掲載が可能となりました。

電子メールシステム上で利用するファイルの漢字コードは、J I P S (日本電気 A C O S 6 標準の漢字コード) になっていますので、電子メールや電子掲示板で利用する文章の中の漢字についても J I P S をご利用ください。また、J I P S と他の各種漢字コードに変換するためのプログラム「K C N V」を本センターで用意していますので、適切な漢字コードに変換してご利用ください。(利用にあたっては別掲「漢字コード変換プログラム (K C N V) の利用」をご参照ください。)

ただし、電子メール、電子掲示板の本文としてバイナリーデータ (制御コード等を含む情報) の利用はできません。なお、バイナリーデータを f t p で転送することはできませんが、電子メールシステム上でのデータの内容は保証されません。

1. 電子メールや電子掲示板にアップロード(PUT)したファイルを利用する方法

- a) ファイル転送 (アップロード)
- b) 電子メールシステムで利用する漢字コード(JIPS)への変換(KCNVによる)
- c) 本文にファイルを利用

2. 電子メールや電子掲示板の内容をダウンロード(GET)して利用者の端末で利用する方法

- a) 本文メッセージをファイルに保存
- b) JIPSから利用者の指定する漢字コードへの変換(KCNVによる)
- c) ファイル転送 (ダウンロード)

※利用例については、電子掲示板サービスの掲示板名「NACSIS」のメッセージ番号78をご参照ください。

(システム管理係)

漢字コード変換プログラム (KCNV) の利用

電子メールシステム上で標準として利用している漢字コード (日本電気 ACOS 6 の漢字コードである「JIPS」) と利用者側の環境で利用する漢字コードとの間の相互変換を行うプログラムとして、提供するものが「KCNV」です。

このプログラムは Ken R. Lunde 氏が作成された漢字コード変換プログラムに東北大学の曾根先生が JIPS の漢字コードが利用できるよう機能追加されたもので、曾根先生のご好意により公開するものです。

このプログラムの機能は、以下のとおりです。

1. 入力 (変換元) ファイルの漢字コードは自動認識します。
2. 出力 (変換後) ファイルの漢字コードは一覧表の中から番号入力で指定します。
3. 変換可能な漢字コードは次の各コード間の双方向です。

(1) NEW-JIS	新 J I S 漢字コード
(2) OLD-JIS	旧 J I S 漢字コード
(3) NEC-JIS	NEC 漢字コード (NEC パソコンの漢字コード)
(4) EUC	UNIX の漢字コード
(5) SHIFT-JIS	MS-DOS の漢字コード
(6) JIPS	ACOS 6 の漢字コード

利用法 (下線部が入力です)

SYSTEM ?KCNV <== 漢字コード変換プログラムを起動する

JIS.C version 1.7.jips (August 20, 1991)

A modified version of JIS.C version 1.7 (January 12, 1991)

Written by Ken R. Lunde (klunde@vms.macc.wisc.edu)

Revised by Hideaki Sone (sone@ecei.tohoku.ac.jp)

Infile name ->

= _____ <== 変換対象 (変換元) のファイル名を入力する

The input file's KANJI code is xxxxxx <== 変換対象の漢字コードが表示される

Select output file's KANJI code

NEW-JIS : 1

OLD-JIS : 2

NEC-JIS : 3

EUC : 4

SHIFT-JIS : 5

JIPS(ACOS) : 6

QUIT : Q

SELECT ->

= <== 変換後の漢字コード(1~6)またはQを指定する

Outfile name ->

= / _____ <== 変換後のファイル名を/につづけて入力する

SYSTEM ?

(システム管理係)

国際電子メールにおける漢字利用の拡大

電子メールサービスで利用する国際電子メール（インターネット、BITNET）の利用において、従来はメールの主題部分およびメールのヘッダ（発信者の情報等）においては、漢字文字列を使用することができませんでしたが、平成6年4月1日からMIME機能を利用して漢字文字列の送受信が可能になりました。（メッセージ本文部分については従来より漢字文字列の利用は可能でした。）

MIME：(Multipurpose Internet Mail Extensions)は、インターネット上で利用されている種々の規格について提案されているIAB(Internet Architecture Board)中のRFC1341,RFC1342,RFC1468に基づいています。

なお、主題に漢字文字列を設定して送信した場合は、受信者側がMIMEに対応していなければ、送信した漢字文字列の部分が漢字として正しく表示されませんので、主題に漢字を使用するにあたっては、受信者側の環境を確認の上ご利用ください。（システム管理係）

インターネット経由でのNACSIS-IR利用

—端末モードの追加—

学術情報センターの各サービスがインターネット経由で利用可能となりましたことは、センターニュースNo.22でもお知らせしましたが、この度、かねてから要望のありました情報検索サービス利用においての、ラインモードでの「EUC」および「SHIFT-JIS」の各コードについて、平成6年3月からサポートしサービスを開始していますのでお知らせいたします。

また、これに伴い平成6年5月中旬から情報検索サービス（NACSIS-IR）の端末モード選択メニューを以下のように変更しましたので、ご注意ください。

Valid Terminal Type	
01- LINE MODE (JIS7)	02- FULL SCREEN MODE (ASCII)
03- LINE MODE (EUC)	04- FULL SCREEN MODE (EUC)
05- LINE MODE (SHIFT-JIS)	06- FULL SCREEN MODE (SHIFT-JIS)

注意事項：ラインモードを選択した場合、「DISPLAY」コマンドで画面に検索結果を表示すると画面が停止せずに最後まで表示し続けてしまいます。このような時はあらかじめ「LINES」コマンドで1画面の表示行数を設定してください。

例：>>LINES 20 (20行で停止する)

(システム業務係)

平成6年度 NACSIS-IR モニターの募集

学術情報センターでは、NACSIS-IR について、平成4,5年度と NACSIS-IR モニター制度を実施し、利用者の方々のきめ細かいご意見・ご要望をお伺いすることができました。

平成6年度も引き続き、下記により、NACSIS-IR モニターを募集します。

1. モニター制度の概要

NACSIS-IR モニター制度は、利用者の中から研究者・図書館職員それぞれ約10名程度の方にモニターとして一定期間、自由にNACSIS-IR を利用していただき、ご意見等の報告をお願いするものです。

平成6年度は、平成4,5年度実施のモニターの方から寄せられたご意見・ご要望を踏まえ、新たに実現した機能を中心にモニターを実施します。

2. 平成6年度 NACSIS-IR モニター制度 実施要領

募集人数	研究者、図書館職員 各10名程度
応募資格	NACSIS-IR の利用者（ただし、既にモニターとなられた方は、当分の間除外させていただきます。）
報告	(1) 学術情報センター指定の様式による報告書を提出していただきます。 (2) 報告会に出席していただきます。
経費	(1) NACSIS-IR 利用料金は、各人10万円分まで無料です。 (2) 報告会出席のための旅費は、学術情報センターが負担します。 (3) (1)、(2) 以外の費用は、モニターの負担となります。
スケジュール	募集 平成6年7月1日（金）～ 8月15日（月） モニタリング 平成6年10月1日（土）～ 12月16日（金） 報告書提出 平成6年12月22日（木）まで（必着） 報告会 平成7年1月20日（金）を予定

3. 応募要領

応募方法	別記応募用紙様式に従って記入し、申込宛先まで郵送してください。
募集期間	平成6年7月1日（金）～ 8月15日（月）（必着）
モニター選考	応募者多数の場合は、学術情報センターで選考の上、応募者全員に選考結果をお知らせします。なお、モニターの委嘱にあたりましては、所属長の承諾があることを原則とします。
申込宛先	〒112 東京都文京区大塚 3-29-1 学術情報センター データベース管理係 モニター担当宛 (Tel. 03-3942-6974, 6973)

(データベース課)

NACISIS-I LL 利用状況 (平成5年度)

平成5年度のNACISIS-I LLシステムの利用状況は以下のとおりです。

1. 利用機関

	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
機 関 数	96	7	65	22	190
参加組織数	222	11	74	22	329

2. 月別レコード件数

年 月	複 写	貸 借	計
1993年 4月	23,716	732	24,448
5月	28,953	961	29,914
6月	34,681	1,402	36,083
7月	33,585	1,541	35,126
8月	29,406	1,188	30,594
9月	32,844	1,161	34,005
10月	35,943	1,329	37,272
11月	39,117	1,570	40,687
12月	32,638	1,513	34,151
1994年 1月	33,757	1,294	35,051
2月	32,016	1,332	33,348
3月	32,503	1,213	33,716
合 計	389,159	15,236	404,395

3. 図書館種別間の流動

上段：複写件数 中段：貸借件数 下段：合計

依頼館 \ 受付館	国立大学	公立大学	私立大学	その他	合 計
国立大学	335,908	405	7,290	3,085	346,688
	12,425	28	806	124	13,383
	348,333	433	8,096	3,209	360,071
公立大学	4,108	52	732	8	4,900
	67	1	25	2	95
	4,175	53	757	10	4,995
私立大学	12,414	549	13,283	295	26,541
	936	10	481	22	1,449
	13,350	559	13,764	317	27,990
そ の 他	8,522	200	2,226	82	11,030
	278	0	30	1	309
	8,800	200	2,256	83	11,339
合 計	360,952	1,206	23,531	3,470	389,159
	13,706	39	1,342	149	15,236
	374,658	1,245	24,873	3,619	404,395

(専門・電子情報係)

接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

(平成6年5月11日現在)

No.	機関名	接続日	No.	機関名	接続日
301	農林水産省農業工学研究所	6.02.15	311	シオン短期大学	6.03.15
302	茨城キリスト教大学	6.02.21	312	アジア経済研究所	6.03.31
303	東京工芸大学	6.02.25	313	神戸女学院大学	6.04.18
304	青森県立図書館	6.02.28	314	北海道医療大学	6.04.21
305	日本歯科大学	6.02.09	315	北陸大学	6.04.21
306	熊本女子大学	6.03.07	316	岡山県立大学	6.04.25
307	札幌医科大学	6.03.08	317	名桜大学	6.04.26
308	藤女子大学	6.03.09	318	防衛大学校	6.04.28
309	金城学院大学	6.03.10	319	大阪府立看護短期大学	6.05.10
310	千葉経済大学	6.03.11	320	山口女子大学	6.05.11
			321	名古屋外国語大学	6.05.11

この結果、参加機関数は、国立大学97、公立大学25、私立大学152、共同利用機関12、短期大学12、高等専門学校4、その他19、合計321となりました。

(共同利用第一係)

電算機等設備移転に伴うサービス休止

電子計算機棟が平成6年12月中旬に西千葉地区に竣工することにより、電算機等設備の移転を平成6年12月17日(土)から実施いたします。この間の各サービスの休止期間は下記のとおりです。

利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けすることとなりますが、ご理解のほどお願いいたします。(本誌27号参照)

サービス	休止期間
目録所在情報サービス	平成6年12月17日(土)～平成7年1月7日(土)
情報検索サービス	平成6年12月17日(土)～平成7年1月7日(土)
電子メールサービス	平成6年12月17日(土)～平成7年1月3日(火)
学術情報ネットワーク	平成6年12月17日(土)～平成6年12月23日(金)

(共同利用課、システム管理課)

NACSIS-IRデータベース収納状況

平成6年4月22日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	113,616	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	81,163	昭和59年度～
3	学会発表データベース	165,933	昭和62年3月～
4	学術論文データベース第一系（全文） （電子関連）	1,573 3,842	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系 （化学関連）	11,401	昭和58年1月～
6	学術論文データベース第五系 （理学関連）	1,474	平成4年1月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成4年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	1,578	昭和46年度～
9	経済学文献索引データベース	96,303	昭和58年4月～
10	学会予稿集電子ファイル	95,295	1969年4月～
11	臨床症例データベース	2,003	1988年1月～
12	雑誌記事索引データベース	1,047,416	1984年1月～
13	現行法令データベース	3,698	平成5年9月末現在
14	維新史料綱要データベース	27,347	
15	木簡データベース	14,574	
16	研究者ディレクトリ	130,109	昭和63年5月現在
17	データベース・ディレクトリ	1,490	平成5年8月現在
18	家政学文献索引データベース	57,276	1979年4月～
19	R A M B I O S	5,382	1983年4月～
20	化学センサーデータベース	14,650	1975年1月～
21	日本独文学会文献情報データベース	10,036	1983年～
22	スラブ地域研究文献データベース	3,128	1988年～
23	電気化学データベース	72,153	
24	Life Sciences Collection	1,260,180	1982年1月～
25	MathSci	1,550,757	1940年1月～
26	COMPENDEX PLUS	2,759,952	1976年1月～
27	Harvard Business Review	2,693	1927年1月～

	データベース名称	収納件数	収録期間
28	ISTP & B	2,162,019	1982年1月～
29	EMBASE	3,041,589	1984年4月～
30	SciSearch	4,966,913	1987年4月～
31	Social SciSearch	1,402,171	1983年4月～
32	A & H Search	1,293,746	1983年4月～
33	目録所在情報データベース (和図書)	861,334 8,140,417	
34	目録所在情報データベース (洋図書)	1,928,594 4,922,813	
35	目録所在情報データベース (和雑誌)	75,758 1,557,970	
36	目録所在情報データベース (洋雑誌)	121,833 1,098,553	
37	科学技術関係欧文会議録データベース	40,096	昭和60年4月～
38	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	8,163	平成5年4月末現在
39	JPMARC	1,512,654	1948年1月～
40	LCMARC(Books)	3,622,354	1968年1月～
41	LCMARC(Serials)	613,832	1973年1月～
42	大型コレクションディレクトリ	479	1978年4月～
43	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	12,018	1991年4月～
44	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	1,921	1991年4月～

(注) No33～36のデータベースの上段は書誌件数、下段は所蔵件数。(システム業務係)

目録所在情報サービス利用の手引(第4版)の発行

「目録所在情報サービス利用の手引(第4版)」は、目録所在情報サービスの概要、学術情報センターとの接続方法、利用するための諸申請手続きなどを説明したものです。

今回の第4版は、支援サービス、ネットワークの経費、利用規則・細則等を改定いたしました。

利用説明会に参加する図書館・図書室等には説明資料として配布しておりますが、ご希望の図書館・図書室等は①送付先の郵便番号、住所、②機関名、③担当者名を記載するとともに、「目録利用の手引(第4版)」と明記の上、共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。

(共同利用第一係)

NACSIS-CATデータベース構築状況

平成6年4月22日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総 合 目 録 デ ー タ ベ ー ス	和 図 書	書 誌	861,891	
		所 蔵	8,169,773	
	洋 図 書	書 誌	1,207,409	
		書誌(週及)	721,890	
		所 蔵	4,926,036	
	和 雑 誌	書 誌	76,111	
		所 蔵	1,565,154	
	洋 雑 誌	書 誌	123,058	
		所 蔵	1,108,701	
		著 者 名 典 拠	708,801	
		統 一 書 名 典 拠	4,467	
		和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ	8,878	
		洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ	12,641	
参 照 フ ァ イ ル	LC/MARC	洋図書書誌	4,358,662	1968年1月～1994年3月
		洋雑誌書誌	613,832	1973年1月～1994年3月
		非文字書誌	247,109	1973年1月～1993年7月
		洋書著者名典拠	2,638,825	1977年1月～1994年4月
		洋書統一書名典拠	145,378	1977年1月～1994年4月
	JP/MARC	和図書書誌	1,518,148	1948年1月～1994年4月
		和雑誌書誌	91,764	1968年8月～1993年3月
		和書著者名典拠	327,561	
	UK/MARC	洋図書書誌	1,391,070	1950年1月～1994年4月
	TRC/MARC	和図書書誌	355,090	1985年4月～1994年4月
	GPO/MARC	洋図書書誌	348,925	1976年1月～1994年3月

(システム業務係)

平成6年度 情報検索・電子メール利用説明会の追加開催

前号で広報しました標記説明会を開催しておりますが、第1回、第2回ともに好評につき募集機関数に達しておりますので、9月22日（木）に追加開催いたします。

(1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要、②情報検索サービスの概要および利用方法
- ③電子メールシステムの概要および利用方法、④申請方法、⑤接続方法
- ⑥研修の申込方法

(2) 開催日時および申込締切

開催日時 (14:00~16:30)	募集開始	申込締切	募集数
追加開催 9月22日 (木)	7月1日 (金)	9月2日 (金)	14機関

なお、先着14機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話（03-3942-6933）で予約（確認）のうえ、「情報検索・電子メール利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名（2名以内）、④連絡先の電話番号、⑤参加日（9月22日）を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。（共同利用第一係）

平成6年度 目録システム講習会の日程変更

電子計算機棟の竣工にあわせ、当センターの講習室の改修工事を実施します。このため、先に「平成6年度研修事業要綱」でお知らせしました目録システム講習会の日程を次のように一部変更します。

受講申込みを予定されていた皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、お申込みに際してご注意願います。

回次	実施期間	変更事項
第7回	平成7年2月13日（月）～2月17日（金）	中止します。
臨時	平成6年11月14日（月）～11月18日（金） 申込み締切日 平成6年9月30日（金）	臨時開催します。

申込み方法等については、「研修事業要綱」をご覧ください。

（共同利用課）

平成6年度目録所在情報サービス利用説明会の開催

前号で広報しました標記説明会を開催しておりますが、引き続き第4回以降の募集をしておりますのでご案内いたします。なお、第7回、第8回については計算機移転に伴う講習室改修のため中止いたします。

(1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要と利用方法
- ③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤研修の申込方法
- ⑥質疑応答、個別相談

(2) 開催日時および申込締切

	開催日時	募集開始	申込締切
第4回	9月9日(金) 13:30~16:30	8月1日(月)	8月26日(金)
第5回	10月7日(金) 13:30~16:30	〃	9月22日(木)
第6回	11月11日(金) 13:30~16:30	〃	10月28日(金)
第7回 第8回	1月20日(金) 2月10日(金)	計算機移転に伴う講習室改修のため中止します。	

なお、各回先着12機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、「目録所在情報サービス利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名(3名以内)、④連絡先の電話番号、⑤接続予定の電算機(メーカー名、機種名、規模など)、⑥参加日(第〇回〇月〇日)を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。

(共同利用第一係)

学術情報センター刊行物一覧

誌名および発行頻度	発行日
センターの総括的出版物	
学術情報センター要覧 和文編	年1回発刊 5月～6月
学術情報センター要覧 英文編	年1回発刊 8月～9月
学術情報センター年報 平成4年度	'93. 6. 1
学術情報センターニュース 最新刊27号	季刊 '94. 3.18
NACSI S newsletter 最新刊No.9	年2回発刊 '93.12
研究報告	
平成5年度 学術情報データベース実態調査報告書	'94. 3. 1
講習会テキスト等	
NACSI S-IR講習会テキスト	'93. 4. 1
NACSI S-IR講習会テキスト 第2版	'94. 3. 1
NACSI S-IR講習会テキスト 検索課題集	'93. 4. 1
NACSI S-IR講習会テキスト 検索課題集 第2版	'94. 3. 1
NACSI S-IR講習会 データベースシート集	'94. 3. 1
オンライン・システムニュースレター 最新刊No.44	'93. 3.31
個別サービスに関する広報	
電子メールシステム利用者マニュアル 第4版	'93. 4. 1
目録所在情報サービス利用の手引き 第3版	'93. 4

人 事 異 動

発令年月日	氏名	官職名	旧官職名
(採用)			
6. 4. 1	小野左知子	事業部目録情報課図書目録情報係	国立国会図書館司書
(転入)			
6. 4. 1	小西 和信	管理部付	上越教育大学教務部図書課長
	笹川 郁夫	事業部目録情報課長	島根医科大学教務部図書課長
	白井 幹郎	管理部総務課課長補佐	東京大学医科学研究所管理課
	増田 浩一	管理部総務課人事係長	東京大学庶務部人事課給与第二掛主任
	永野 謙一	管理部会計課総務係長	東京大学医学部附属病院分院経理掛長
	前谷 強志	事業部システム管理課システム管理係長	東京大学大型計算機センターUTnet運用掛長
	松原 康夫	事業部システム管理課システム業務係長	電気通信大学総合情報処理センター
	赤塚 健一	管理部会計課	東京大学農学部
	渡邊 康	管理部会計課	東京大学医学部附属病院管理課

山口 香織	管理部共同利用課	東京大学附属図書館情報サービス課
小林 一男	事業部システム管理課	大阪大学大型計算機センター

(所内異動)

6. 4. 1	山田 尚勇	副所長 (企画調整官)	研究開発部システム研究系教授 (研究開発部長)
	井上 如	研究開発部長 (併任)	
	井上 如	研究開発部学術情報研究系 研究主幹事務取扱	
	郡司 久	事業部システム管理課課長補佐	事業部システム管理課システム管理係長
	石原 栄一	事業部データベース課調査係長	事業部データベース課調査係調査主任

(所内異動)

中尾 実	事業部システム管理課システム管理係 システム管理主任	事業部システム管理課
------	-------------------------------	------------

(転出)

6. 4. 1	坂上 光明	東京大学附属図書館情報サービス課長	事業部目録情報課長
	田中 榮博	国際日本文化研究センター 情報管理施設情報課長	管理部共同利用課課長補佐
	渡辺 博	奈良先端科学技術大学院大学 研究協力部学術情報課長	事業部システム管理課課長補佐
	久保田 忠	東京大学経理部情報処理課課長補佐	管理部総務課課長補佐
	浅沼 洋一	東京大学医科学研究所経理課専門職員	管理部会計課総務係長
	二宮 徹平	国立国語研究所庶務部庶務課庶務係長	管理部総務課人事係長
	丹下 藤夫	東京大学大型計算機センター U T n e t 運用掛長	事業部システム管理課システム業務係長
	関 豊	東京大学総合研究資料館会計掛主任	管理部会計課
	小野 豊	東京大学医学部附属病院医事課収入掛	管理部会計課

(出向)

6. 4. 1	小寺 正一	国立国会図書館	事業部目録情報課
	飯倉 忍	国立国会図書館	事業部目録情報課

(停年退職)

6. 3. 3 1	西田 龍雄		副所長 (企画調整官)
-----------	-------	--	-------------

(辞職)

6. 3. 3 1	飯田 記子	研究開発部システム研究系助教授	関西大学総合情報学部教授
	金 容媛	研究開発部学術情報研究系助手	駿河台大学文化情報学部助教授
	桂 英史	研究開発部学術情報研究系助手	東京造形大学造形学部助教授

(勤務命令)

6. 4. 1	船渡川 清	管理部共同利用課	事業部データベース課数値・画像データベース係長
	甲斐 重武	事業部データベース課	事業部目録情報課専門・電子情報係長
	鈴木 敬二	事業部目録情報課	管理部共同利用課情報・資料係長

海外渡航一覧

- 4. 1～ 5.16 藤代助手（ロシア）
- 4. 9～ 4.20 浅野教授、三浦管理部長（ベルギー国、オランダ国他）
- 4.10～ 4.16 大山助教授（米国）
- 4.12～ 4.22 小野教授（スイス）
- 4.20～ 7. 2.19 趙 助手（米国）
- 4.20～ 4.28 宮澤教授、渡邊雑誌目録情報係長（連合王国）
- 4.23～ 5. 3 山田副所長（米国）
- 5. 3～ 5. 9 小野教授（スウェーデン王国）
- 5. 9～ 5.14 山田副所長（大韓民国）
- 5. 9～ 5.16 小山助教授（ロシア）

学術情報センター日誌

- 3. 9 評議員会（分室会議室）
- 4.13 英国 British Library Document Supply Centre, Mr.Stephen Vickers 他 2 名来訪
- 4.18 米国 Stanford University, Dr.John R. Pierce 氏来訪
- 4.21 公開講演会（機械振興会館ホール）